

領域・小問ごとの分析	対 策 の 視 点
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率はそれぞれ65%、60%であるが、「日光がよく当たると水温が高くなるのもっとよくふえる」「日光が当たらないとも肥料のある水ではよくふえる」という誤答が多い。 7. 根毛の主な働き <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率77%とほぼ理解されている。 8. 水中の小さな生物（ミジンコ）の形態 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率71%とほぼ理解されているが「ミドリムシ」と「ミジンコ」の区別ができないための誤答がある。 9. 茎のつくりと働き <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率は、それぞれ62%、62%である。 10. 植物体の中に入った水のゆくえ <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率は48%と低く、植物体に入った水は、茎や葉から蒸散によって出ていくことの理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 対照実験の考え方、記録の取り方、データの読み取りについても指導する。 ◦ 植物体を支えている根の働きと、水分・養分を吸収する根毛の働きをきちんと区別した指導が望まれる。 ◦ ミジンコは小学校で学習するプランクトンの代表例でもあるので、顕微鏡をとおして実際に観察させる指導が望まれる。 ◦ 「茎のつくりと働き」は重要な指導事項でもあるので、実際に実験・観察をとおし、つくりと働きを関連づけた指導が望まれる。 ◦ 実験、観察の目的や過程を大切に、結果を正しく処理する能力を育てる指導が望まれる。
<p>領域 C (地球と宇宙)</p> <ul style="list-style-type: none"> 11. 星の日周運動と明るさ <ul style="list-style-type: none"> (1) 北の空の星の動き（日周運動） <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率は59%で、北極星を回っていることはわかるが、どの方向に回るかがよく理解されていない。 (2) 星の明るさの違い <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率は60%であり「星には速く動いたり、遅く動いたりするものがある」という誤答が見られる。 12. 太陽の通り道近くに見える星は、太陽と似た動きをすること <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率はそれぞれ、54%、63%であるが、東と西の空の星の動きを混同した誤 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 北の空で観測しやすい北斗七星・カシオペア座の動きを測定させて理解させる。 ◦ 日周運動については、実際に時間をおいて数回観測するという経験から、反時計回りに回っていることを理解させることが大切であるが、更に北天の星の日周運動の写真の活用も図り、明るさについてもふれておきたい。 ◦ 東・南・西の空に見える星の集まりの動きを、時間をおいて2～3回観察し記録させ、その結果をもとに推論を加えて、全体の動きをとらえさせるような指導が望まれる。